

## 日本数学教育学会『算数教育』・『数学教育』原稿執筆要領

この「原稿執筆要領」は、質が高く読みやすい学会誌を発行することを目的として作成されたもので、原稿を書く際には、この「原稿執筆要領」と最新の本学会誌を参考にすること。

1. **原稿の書式** 原稿はA4サイズ縦置き横書きとし、22字42行の2段組とする。
2. **題目の字数** 題目は40字以内とする。副題がある場合、副題は30字以内とする。
3. **要約** 要約は440字（44字10行）以内とし、研究の目的、方法、及び、主な結果が分かるように簡潔に明瞭にまとめる。
4. **キーワード** キーワードは5件以内、合計で20字以内とし、その研究の特徴を最もよく示す算数・数学の内容、学習・指導の内容、研究方法などを表す単語とする。
5. **文体** 文体は「である」調とし、常用漢字ならびに現代かなづかいを用いる。外国語を用いる場合は、原語の後に括弧（ ）をつけて日本語訳を付す。
6. **見出し番号の付け方** 章、節、項などには、見出し番号と標題を付す。見出し番号は次の順とする。  
章の見出し番号：1, 2, …, 節の見出し番号：(1), (2), …, 項の見出し番号：①, ②, …
7. **図表**
  - ・図表は、冊子として出版される論文（A4からB5に縮小）上でも内容が読み取れるよう、十分な大きさを確保する。必要に応じて左段と右段の2段を使って示してよい。また、図表は中央寄せで配置する。図表の周りに本文が回り込む形式は使用せず、図表を含む行は図表のみとする。
  - ・図表には、表1, 表2, …, 図1, 図2, …のように通し番号をつけ、標題を付す。表の通し番号と標題は表の上側に、図の通し番号と標題は図の下側に付す。
  - ・本文中に発話記録（プロトコル）を示す場合は、図や表として扱わず、該当部分の上下を線分で区切り、本文と区別する。なお、途中を省略する場合は、「(中略)」と記す。
8. **引用の仕方および引用・参考文献の記載形式** 別に定める「論文執筆における引用の仕方、及び引用・参考文献の記載形式」をよく確認し、それに従う。
9. **注釈** 本文の該当部分に<sup>1)</sup>, <sup>2)</sup>, …のように上付きで通し番号を付け、論文本文の末尾、引用・参考文献の前に「注」としてまとめて記す。引用・参考文献や注釈のフォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない。

附記：この原稿執筆要領は令和3年12月13日より施行する。